

代表質問



そうま市民の会代表
浦島勇一 議員
が問う！

多様な市民の意見の反映を!!

相馬市マスタープラン
2017-2032

本定例会初日の市長挨拶でも示されていたが、相馬市マスタープランは「10年の計」として本市最上位の総合計画である。令和8年度を計画最終年度として迎えるにあたり、その総括と、令和9年度から開始される新たな総合計画の策定に向けた方針について問う。

Q. 計画最終年度としての総括と新たな総合計画策定に向けた方針を問う。

A. 市は、令和8年度中に、今後のまちづくりの総合的な指針となる新たな総合計画の策定を予定している。

策定にあたっては、これまでの10年間の社会情勢の変化と、今後10年程度の未来に予想される変化が、今後のまちづくりに与える影響について十分に分析し、その内容を踏まえた計画とする必要がある。そのため、策定に先立ち、令和7年度中にマスタープラン2017の検証に着手し、これまでの取組の成果と、今後の課題を明らかにするとともに、令和8年度早期には、市民アンケートを実施し、市民の皆さまの視点から、市の課題やまちづくりに対するご意見を伺いたいと考えている。

また、来年度の上半期には、市民参加型のワークショップを開催し、様々な年齢や立場の市民の声を直接伺い、対話を通じて本市の将来像を共に考え、計画に反映してまいりたいと考えている。

なお、次期総合計画をより良いものとするために、計画策定のプロセスにおいて、外部の知恵を活用することも重要であると考えている。

市としては、外部の知恵を取り入れる具体的な方法については、今後の課題として検討していくが、市職員のリソースと組織の成長を促す観点から、策定作業の外部業者への全面的な委託は行わない方針である。

その他の質問

○市長の政治姿勢について



マスタープラン2017



動画は ↓
↑こちらから↑

代表質問



新時代そうま代表
只野敬三 議員
が問う！

スピード感を持って
進めよう!!

これからの街づくりについて

多くの市民が変革を求め、その思いの中で、今年新たに阿部市長が誕生したのではないかと。新市長を先頭に相馬市は、大きな市民の期待にこたえていかなくてはならない。これは決して容易なことではないが、市民に挑戦する姿を見せ、全市民一丸となった取組を実現するために市長の考えについて問う。

Q. 人口減少への取り組みについて問う。

A. 市では、これまで、人口減少に対応するための取組として、働く場所の確保が重要との考えのもと、企業誘致をはじめ、産業振興を中心とした地方創生の施策を推進してきた。

しかし、令和7年3月に改定した第三期相馬市地方創生総合戦略の策定に先立ち実施した市民アンケートでは、企業誘致を含む施策である「商工業の基盤整備と雇用の創造」に関する満足度が最も低く、また市内の働く場所の少なさに対する意見が多く寄せられた。併せて改定した相馬市人口ビジョンにおける当市の人口推移を分析した結果では、若者、特に女性の市外流出が顕著であり、Uターンする方も減少していることが判明した。

さらに、県の調査によれば、県内の企業では、若者が職場に求める働き方改革や女性活躍の推進が、首都圏の企業に比べて進んでいないことが示され、市外への流出とUターンが減少する要因の一つとなっていることが判明した。

これらの結果を踏まえ、第三期総合戦略では若者や女性に選ばれる職場づくりを重視していく。具体策として、市内企業への働き方改革や女性活躍推進の啓発研修会や外部専門家による支援を実施し、職場改革を進めていく。

市としては、本事業を通じて、市内に若者や女性に選ばれる職場を増やすこと、また、本事業の取組をPRすることを通じて市内企業の魅力を広く発信し、Uターンする方の増加につなげてまいりたいと考えている。

その他の質問

○市長の政治姿勢について



動画は ↓
↑こちらから↑

代表質問



新政会代表
菊地清次 議員
が問う！

国や県に相馬港3号ふ頭の
整備促進への働きかけを!!

市長の政治姿勢について

相馬港3号ふ頭の工事が進めば、貨物の取扱量が増え、港近くに事業所の増加や雇用の創出といった可能性が広がる。国や県に3号ふ頭の延伸について全力で働きかけをお願いし、市としての見込みについて問う。

Q. 相馬港の利活用促進について問う。

A. 相馬港では、平成21年度にコンテナ輸送が開始され、東日本大震災前までは年間500本から700本のコンテナ貨物の取扱があった。しかし、震災の影響で物流が停滞し、その後、一時的に復活したものの、低迷が続く、現在ではコンテナ貨物の取扱いは停止している状況である。

コンテナ輸送再開に向けては、相馬港における荷上げ環境の整備が不可欠であり、3号ふ頭の延伸や岸壁・ふ頭用地の整備のほか、コンテナ貨物の積み下ろし設備であるガントリークレーンを整備する必要がある。これらの整備事業は国と県の費用負担により進められていくため、市は、毎年、国と県に要望書を提出し、その早期実現を目指して働きかけを行っている。

また、令和8年2月には東北地方整備局副局長と私（市長）が面談し、3号ふ頭の延伸およびガントリークレーン整備について改めて要望を伝えたところである。

また、コンテナ輸送再開にあたっては、輸送需要の確保と掘り起こしが重要な課題である。市はこれまで、国や県と協力し、県内はもとより、宮城県や山形県等の近隣企業等に対し、相馬港利用のメリットを積極的にPRするポートセールスをはじめとした営業活動を通じて、コンテナ貨物需要の確保に取り組んできた。

市としては、今後も、相馬港の機能強化とコンテナ輸送再開に向けて、国、県との連携をより一層密にしながら、更なるポートセールスと港湾施設整備の要望活動に努めていく。



相馬港3号ふ頭
(国土交通省小名浜港湾事務所提供)



動画は ↓
↑こちらから↑